

新たな人材「アシスタントワーカー」

アシスタントワーカーとは、介護施設で部屋の掃除、食事の片付け等、直接介助に携わらない業務を担う“介護現場の新たな人材”です。

アシスタントワーカー募集説明会&色彩コミュニケーション講座

住之江区(9月6日(月))、生野区(9月13日(月))において、「アシスタントワーカー募集説明会&色彩コミュニケーション講座～子どもの個性を知るカラーワーク～」を開催しました。

アシスタントワーカーは、無資格で短時間の勤務も可能なので、子育て中の方にも多く応募していただければと、区役所等区内でのチラシの配架のほか、子育て情報を掲載しているホームページやLINEでの情報発信を行ったところ、子育て中の方はもとより、シニアの方など幅広い年齢層の方に参加いただきました。

募集説明会では、法人の理念、施設の概要、アシスタントワーカーについての説明があり、参加者からは「参加施設の特徴がよくわかった」「働いてみたい」などの声がありました。



また、色彩コミュニケーション講座は、自分の子どもや関わりのある人に当てはめ、それぞれのタイプを知り、そのタイプに応じた関わり方などを学びました。

今回の募集説明会がアシスタントワーカー採用につながることを期待しています。

施設での受入準備(マニュアル作成)

各施設では、アシスタントワーカー受入準備として、わかりやすいマニュアル作成を行っています。まず、業務手順を作り、その手順に必要な情報をまとめて加えていきます。文章表現は、「少し」や「強めに」などの感覚的な言葉を使わず、どのように行うかだけでなく、それを行う目的も加えます。最後にその業務の出来栄を評価するためのチェックリストも作成しており、スタッフのスキルチェックにも活用されます。



令和2年度モデル事業所フォローアップ

住吉区の3施設とオンラインで、①現在のアシスタントワーカーの現状と効果・副作用について、②今後の職場課題について、③採用活動・人材確保についての意見交換を行いました。

デメリットはなくメリットばかりという意見に対し、「なぜうまくいったのか?」と質問したところ、「採用時に仕事内容を明確にした」「介護がないので敷居が低い」「人の役に立ちたいとの思いを持ってこられた」「教育のシステムがきっちりしている」などの回答がありました。

アシスタントワーカーを導入し、介護職員の負担軽減にはつながっていますが、コロナ禍の状況でやらなければならないことが増えているということもあり、さらなるアシスタントワーカーの活躍が期待されます。

